

第23回群馬県小児救急医療対策協議会

次 第

日時：平成31年3月11日（月）

19：00～20：30

会場：群馬県庁7階審議会室

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 小児医療関連施策にかかる今年度の実績及び今後の取組について

- ①小児救急医療支援事業について (資料1)
- ②小児救急電話相談事業について (資料2)
- ③小児救急医療啓発及び初期救急に関する施策について (資料3)
- ④医師確保修学研修資金の貸与状況について (資料4)
- ⑤平成31年度県当初予算案について (資料5)

(2) 各地域の小児救急医療体制について (資料6)

(3) 今後の周産期医療体制にかかる検討状況について (資料7)

4 その他

5 閉会

第23回群馬県小児救急医療対策協議会 出席者名簿

日時：平成31年3月11日（月）

19:00～20:30

会場：群馬県庁7階審議会室

委員等

区分	氏名	所属・役職名	出欠	備考
県	根岸 信宏	健康福祉部副部長	○	
医師会	今泉 友一	群馬県医師会理事（小児担当）	○	
	有坂 拓	群馬県医師会理事（救急担当）	○	
小児科医会	田口 勉	群馬県小児科医会会長	○	
三次救急	荒川 浩一	群馬大学大学院医学系研究科小児科学教授	○	
	外松 学	群馬県立小児医療センター院長	○	
二次救急	松井 敦	前橋赤十字病院小児科部長	○	
	須永 康夫	独立行政法人地域医療機能推進機構群馬中央病院 小児科主任部長	代理	
	齋藤 耕一郎	前橋協立病院小児科科長	○	
	前田 昇三	伊勢崎市民病院副院長	○	
	五十嵐 恒雄	独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター 小児救急部長	○	
	渡部 登志雄	公立藤岡総合病院小児科部長	○	
	小須田 貴史	公立富岡総合病院小児科主任医長	欠席	
	西村 秀子	利根中央病院小児科部長	○	
	鈴木 尊裕	桐生厚生総合病院小児科部長	○	
	堀 尚明	SUBARU健康保険組合太田記念病院小児科部長	○	
一次救急	田村 一志	前橋市医師会理事（小児救急担当）	欠席	
	橋爪 洋明	前橋市医師会理事（救急担当）	○	
	羽鳥 則夫	伊勢崎佐波医師会副会長	欠席	
	高柳 均	伊勢崎佐波医師会理事（救急担当）	欠席	
	新井 英夫	高崎市医師会理事（小児・救急担当）	○	
	川島 理	渋川地区医師会会長	○	
	竹内 香代子	渋川地区医師会委員（夜間急患診療所運営委員、 感染症予防接種委員）	○	
	永田 徹	桐生市医師会副会長	○	
金子 浩章	桐生市医師会理事（小児担当）	○		
消防	清水 岳	群馬県消防長会長（前橋市消防局長）	代理	

第23回群馬県小児救急医療対策協議会 議事概要

日時：平成31年3月11日（月）

19:00～20:30

会場：群馬県庁7階審議会室

1 開会

○司会：小西係長

2 あいさつ

○根岸副部長から挨拶。

3 議事

○進行：荒川教授

(1) 小児医療関連施策にかかる今年度の実績及び今後の取組について

①小児救急医療支援事業について

②小児救急電話相談事業について

③小児救急医療啓発及び初期救急に関する施策について

④医師確保修学研修資金の貸与状況について

⑤平成31年度県当初予算案について

○資料1～3及び5を医務課林、資料4及び5を医師確保対策室柳係長から説明。

○委員：保護者講習会で使用する標準的なスライドは用意されているか。

→事務局：現状では各講師に御用意いただいている。

○委員：渋川地区で開催の講習会は受講者が多いが、受講者を集める工夫は。

→川島委員：幼稚園・保育所の保健会関係者を対象としている。

→事務局：NPO委託分については保育所の参観日に合わせて開催。

○委員：医学生修学資金貸与に関して、県内出身の医学部進学者の状況は。

→事務局：県内から年間約90名が医学部へ進学。うち30名が群大で、卒業後の県内就職率は8割ほど（県外出身の群大生は県内就職率が3割ほど）。60名は県外へ進学するがUターンは20名ほどなので、残り40名のUターンを促進したい。

(2) 各地域の小児救急医療体制について

○資料6を医務課林及び各地域協議会の会長等から説明。

○委員：輪番の維持は安泰ではない。年配の医師や外勤の医師の当直によって支えられている現状がある。NICUを持つ病院では毎日当直が必要であり医師が疲弊している。労働基準法では一人あたりの当直回数は週1回までとされており、超える分は時間外労働として扱うべきである。各病院の当直・日直の状況を把握する必要がある。

○委員：10連休中の救急受診先はどのように周知されるのか。

→事務局：県が情報を取りまとめておりホームページで周知する予定である。

○県外患者の状況等について意見交換。

(3) 今後の周産期医療体制にかかる検討状況について

- 資料7を医務課林から説明。
- 委員：周産期医療の現状を県民へ周知すべきだ。
- 委員：総合周産期母子医療センターについては、早く整備のロードマップが示せると良い。
地域周産期母子医療センターについては、医師が高齢化しており集約の必要性が迫っている。
地域の市町村や住民の理解を得られるよう、県の支援をお願いしたい。
- 委員：総合周産期母子医療センター整備の方向性を検討するため、関係者のヒアリングを実施すると聞いたが。
→事務局：内部で検討するためのヒアリングについては実施したところである。

4 その他

- 委員：初期救急を担う小児科医の不足や高齢化。在宅当番医のセンター化の検討、県外から医師を招聘して休日診療を行った事例等について意見交換。

5 閉会

- 事務局から事務連絡、閉会。